



ふくろうの年男&年女



長田道子さん(83歳) (神戸市)
皆とお喋りを楽しみたい。
行事にも参加したい

谷信義さん(83歳) (豊岡市)
皆とお喋りをしながら、
楽しく過ごしたい。

大下実子さん(95歳) (洲本市)
皆と仲良く元気に
過ごしていきたい。



北岡昭子さん(83歳) (洲本市)
家族が遊びに来て
くれるのが嬉しい。

中田や系子さん(95歳) (洲本市)
美味しいものを食べて
ゆっくり過ごしたい。

相良ヒサ子さん(83歳) (神戸市)
皆と一緒に穏やかに
過ごしていきたい。

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

ふくろうの郷では、介護職員・栄養士・看護職員などを募集しています。入居者の方々の人生を学びながら、共に成長できる場所で一緒に働きましょう！ご連絡お待ちしております。

12月18日(金)、しめ縄づくり、餅つきとお正月準備が着々と進むなか、毎年恒例になった「来年を占う漢字」を松栄寺の笹津住職に書いていただきました。

漢字はふくろうの郷を訪れる方や入居者、職員などが、事務所受付にある投票箱に投じ、それを入居者の皆さんが選んで決めます。今回は「福」が選ばれました。

笹津住職から、「福」という漢字の『畠』は酒などを満たした容器、『示』は神様への捧げものを表しています。神様へのお供え物のおさがりを共に食すのが共食」との説明がありました。「福」というのは神様が与えてくださったことに感謝することからやってくるのかなと感じました。

新しい年を無事に迎えることができました。二〇一六年は申年(さるどし)です。「申」という字は「伸」の原字で、草木が伸びきり、果実が成熟して堅くなつていく状態を表すと解釈されています。

淡路ふくろうの郷も設立から十年を迎えます。ふくろうの郷という果実も成熟していきますようがんばります。

2016年を占う! 漢字



松栄寺の笹津住職の書

そのほかにも地域交流会の北岡肇様からは申年にちなみ、「見ざる聞かざる言わざる」から「三」、ふくろうの郷自治会からは北風章子さんが「福」、会長の黒崎時安さんからは自分の名前でもあり、安らかな時間をと「安」、老人会を代表して山口憲昭様からは命永らえますようにと「命」、法人評議員の平野俊和様からは健やかに過ごせますようにと「健」をそれぞれ力強く書いてくださいました。(写真は次頁に掲載)

2016年はこれらを実現する年にしていきましょう。

今年の漢字「福」

一人ひとりが幸福に暮らせる年に

社会福祉法人

ひょうご聴覚言語障害者福祉事業協会

理事長 大矢 暹



明けましておめでとうござい
います。
明けておめでとうござい
ます。

暮れの18日、地域交流会と
老人会のご支援を得ての餅つ
き・しめ縄づくり。門松も飾
っていたら、ここに新年
を迎えられましたこと、心か
ら感謝し共に喜びあいたい
です。

この日、餅つき・しめ縄づ
くりが続いて、ふくろうの郷
恒例の書き納め「来年を占い
展望する漢字」は「福」でし
た。松栄寺のご住職が大書し
ていただきました。みんなが
幸福に暮らせる世の中をつか
みたい、そんな願いが込めら
れたのが「福」です。

それは、介護報酬の切り下
げと食費など負担増、介護職
員希望者の減少と確保の困難
さ、こうした福祉環境を改善

くろうの郷で一緒に働きま
せんか」と呼びかけを続けて
います。どうか気軽にお問い
合わせくださいますようお願い
いたします。

今春に10周年を迎えるふく
ろうの郷は、叱咤激励してく
ださっている行政や団体・個
人に感謝しつつ、当事者の実
態とニーズを大切に、関係
者とともに手を携えて、中川
原地域の振興をはじめ、福祉
作業所「神戸ろうあハウス」
の緊急移転、神戸市みみプラ
ザ（神戸市聴覚障害者総合セ
ンター・仮称）など保健福祉
圏域における福祉・参加・交
流の拠点事業所の整備、本来
の地域貢献事業に邁進する決
意です。

職員が病気の時や、また産
前・産後、育児休業及び夜勤
の配慮を受けられるために最
大の努力を払っています。そ
の関係で、看護師・栄養士も
含め、職員体制を充実してい
くことは急務です。

ふくろう新聞などでも「ふ

職員募集しています

生活援助員（介護）・

栄養士・看護師

餅をついて、しめ縄作って

12月18日、地域の皆様のご協
力の下、餅つきとしめ縄づくり
が行われました。

餅つきは最初は見ているだけ
だった入居者も声をかけると
「やる！」と立ち上がり、勢いよく餅
をついていました。ついた餅は女性陣
が丸め、お汁粉でいただきました。

しめ縄づくりも入居者も慣れたも
ので地域の皆様と輪になって作りま
した。出来上がったしめ縄は後日、地
域の皆様がひとつひとつ入居者の部
屋の戸に付けて回って下さいました。
ありがとうございました。



皆さんの2016年の漢字



新年の抱負・業務紹介

・栄養調理係

あけましておめでとうござい
ます。管理栄養士の秦です。
栄養調理係は、入居者の皆様
に毎日食事を提供しています。
中でも私は日々の献立作成を
始め、入居者の皆様の状態に合
わせた栄養ケアを担当してい
ます。日々のお食事の様子を見
たり、食事量をチェックし、現
在のお食事が合っているのか、
調理職員だけでなく介護職員
や看護職員とも相談しながら
検討します。

施設で生活されている入居
者の皆様にとっては、お食事は
毎日の楽しみの中の大部分を占め
ていると考えています。現在栄
養管理の業務をすべて一名で
行っている為、負担は大きいで
すが、今年も入居者様の笑顔を
第一に日々頑張っていきたい
と思います。(栄養調理係 秦)

・健康看護係

あけましておめでとうござい
ます。
健康看護係は、淡路ふくろう
の郷の入居者さんにたのしく安
全に過ごしていただけるように、
日々の健康管理をしています。
また、デイサービスセンター桜ヶ
丘へ、ふくろうの郷から看護職員
を派遣して、利用者の方が安心
して過ごしていただけるように健
康チェックをしています。

看護職員は不足しており、ひ
とりひとりの負担は重いですが、
しんどくても常に笑いを絶やさ
ない雰囲気づくりに努めていま
す。「笑う門に福がくる」ふくろ
うを目指し今年も楽しく入居
さんの人生に寄り添い学ばせて
頂きます。(健康看護係 渋谷)



▶健康看護係▶

クリスマス会

クリスマス当日
の12月25日、ふく
ろうクリスマス会
を行いました。い
つもと違った雰
気の中でゲームを
したり、レストラ
ン風の食事を楽し
んだり、笑顔が絶
えない時間となり
ました。

また、今年には地域交流会相談
役の北岡肇様がサンタに扮して
登場し、入居者にお菓子を配っ
てくださるといふサプライズも
ありました。入居者の皆様も子
供のような笑顔で嬉しそうに受
け取られていました。北岡様、あ
りがとうございました。



▲今年はレストラン風の
ワンプレートランチです。
喜んで頂けたでしょうか

門松づくり

12月29日、年末のお忙しい
中、また寒い中今年も地域交流
会の皆様に門松づくりをお手伝
い頂きました。門松が玄関に飾
られると、新年を迎える準備が
できたという感じですね。本当
にありがとうございました。





**淡路市
手話言語条例採択!**

12月18日、淡路市議会にて、手話言語条例が議員全員一致で採択、施行は平成28年4月1日です。

**淡路聴覚障害者
センター**
便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

傍聴には淡路聴力障害者協会や手話サークルの会員、兵聴協理事等 20 名あまりが参加し喜びあいました。また参加者からは「成立を喜ぶだけでなく、今後内容のいいものにしてほしい、淡路市に身近に集い、相談できる淡路聴障センターの支所のようなものが欲しい」、南あわじ市に居住の淡聴協の斉藤

会長は、「洲本市、南あわじ市も早く条例を作ってほしい。」との声。また淡路市に住む柏木さんは、「ろう者の雇用に関する身分保障などについて理解を深めてもらうため、学校や地域の集まりなどで紙芝居を使ってどんどん話をしていきたい」と決意を語りました。(辻)

淡路市に聴覚障害者福祉交流のセンターをめざそう!



第8回
社会生活教室
12/23

▲多数の参加者から
質問が飛び交いました

「マイナンバー」って何? いろいろマイナンバー制度が始まります。洲本市市民課 課長 浦上初美氏にマイナンバーについてお話しいただきました。

マイナンバーについての情報流出や詐欺事件、誤配などの報道が続いており、不安を持つ方も多く、49名もの参加がありました。マイナンバーは社会保障・税・災害対策の分野で利用されます。どんな時マイナンバーを提示しないといけないのか? また、写真付きの「個人番号カード」は必要なのか? など、参加者からは質問がたくさん出ていました。まだ始まったばかりの制度ですので、今後も新しい情報があればこのような学ぶ機会を設けたいと思います。



▲「バランス良く食べることが大事」と管理栄養士の秦氏

バランスの良い食事で生活習慣病を予防

高血圧や糖尿病などを抱え、通院、服薬を続けている方が多くいます。午後からは、ふくろうの郷管理栄養士の秦氏に生活習慣病と食事の関わりについて話していただきました。

生活習慣病を予防するため普段からの食事について塩分の摂取量やバランスのよい食事を付けなければならぬことを話していただきました。放っておくと脳梗塞や心筋梗塞、がんなどあらゆる病気のもととなる生活習慣病ですが、「塩分」「コレステロール」などの目に見えないものの理解が難しく、また「痛み」や「苦しみ」はなく、実感として病気の怖さ、深刻さを感じられないのか、生活改善努力にはつながりにくい状況です。今後も継続的に根気よく学習していく必要を感じています。(楠本)

**通訳派遣課題の検討
～兵通建との懇談会～**

12/16 洲本健康福祉館



地域で抱えている通訳課題について話し合い、解決や要望に繋げていこうと兵通研淡路地域班との共催で手話通訳者懇談会が開催されました。センターは三市からの委託を受けて派遣事業を行っています。懇談会では「登録通訳者が19名と徐々に増加しているが、昼間働いている平日の通訳活動が困難」「専任通訳者と登録通訳者との事例検討をする機会を増やす必要」「ろう者が抱える問題は、家族、健康、介護保険の問題など多岐にわたっている。役所との連携が必要なケースも多い」「なんでも相談できる関係作りが大切である」等様々な課題が挙げられました。

通研の運営委員さんから他市の現状について話を聞くこともでき、地域差が非常に大きいことに驚くとも同時に、いつでもどこでも同じ質のサービスが受けられるような制度にしていかねばならないと認識を新たにしました。(竹内マ)

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

40アール12万本

玉ねぎ苗植え

おのづかの家

「今日からみんなで育てた玉ねぎの苗を畑に植えよう」の掛け声でまず苗取りが始まりました。

この地域の畑で作業をされているのをみんなで見てきたので、作業のやり方は理解できています。しかし実際に行うのは初めてです。苗取りの経験者はいませんが、元大工の棟梁、植木の剪定作業が上



新年初め、苗取りしている山野信彦さん

手な岡本さんが「これでいいのかな」と一人で考え研究しながらやっています。さすが元職人はポイントをつかむのが早い二人です。短時間で早く作業が行えるようになっていきます。なんでも熟練のお二人です。

地域の方が見に来られ「苗上手にできたな」「丁寧な作業してるな」「上出来やん」言われ嬉しそうでした。「大変やあさって雨やで」「あした中に取った苗を植えなんや」と昼食しながらテレビの天気予報を見ていた山野さん(89歳)が言います。

最近、農業班毎日の天気予報に関心を持ち、天候と農作業が結びついてきました。

雨が降った日は農作物が気になるようになってきたので「雨がふるから、今日中にこの畑に苗を植えてしまおうよ」と張り切って西本馨さん(63歳)は一本一本丁寧に植えています。

丁寧すぎて何度も苗に土をかける。要領よく植えている藤木敏司さん(52歳)。自分のペースで植えていきます。一畝、二畝と進みます。進むにつれ手が早くなってきました。「はい、休憩」と声がかかると、どろどろになった手袋を脱いで一服です。

隣の広い畑では機械で苗植



えをされていきました。濱口直浩さん(35歳)はこの休憩中に見学です。「早う植えてやな」「一人でもできるんやな」「機械高いやろな」「農家の人に聞くと「この玉ねぎ苗植え専用機械は一台180万円する」と聞きびっくり。車が買える値段でした。「この機械の元を稼ぐのは大変なんやで」「玉ねぎ栽培だけでは儲けが少ない、キャベツやレタスも合間に栽培せんと機械代が払えんや」ともこの広い畑でもこの機械では一日で植えられると言われま

す。こちらの手植えはなかなかです。機械は何十倍もの速さがあります。また手植え作業を始めます。

年末までに40アール分約12万本を植える予定でしたが途中の大雨で1月も植えることになりました。(藤崎・中島)

きれいに正月を迎えたいパーティー

おたがいさまでは昨年もこの時期に依頼いただいた方から「年末やし庭周りやバベの木を刈ってくれへんやろか? 家の中もできれば整理してほしい」と依頼がありました。やはり新しい年に向けて歳神さん

これからもおたがいさまは「地域の困りごと」を解決・軽減できる取り組みを行っていきます。(濱田) ※パート2はふれあいだよりに掲載しています。

家の内外は綺麗にしておきたいもの。しかしお一人暮らしの方にとっては一朝一夕でできるものではありません。まして依頼いただいた方は足の調子も悪いのでなおさらです。

年末で応援者さん自身もご自分の家のことがある中、「よっしゃ」と引き受けてくれ計5日間かけて行ってくださいました。



作業後



作業前

中川原地域の地主さんの声

田畑をお借りしてしてる地主の高田長俊様からは、「この畑は草を生やしているだけだから管理してもらってこちら助かるよ、トラクターも必要な道具も使っていいよ」と全面的に支援を頂いています。

高田様は元京都府立豊学校の教諭で、手話で作業指導したりと交流できる事もありがたいことです。

(藤崎・中島)



昨年10月、稲刈り作業終了の様子

続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

No.18

北岡 肇

① たぬきにだまされぬぞ

「しりやき茂平」さん

昔、中川原町厚浜から洲本の城下町へ行くのに山越えの道がありました。山には狸が住んでいて人を化かしたという事です。その時の民話です。同地区の畑田實さん(故人)が保存していたものです。

むかしむかし、私たちの村に茂平さんという人がありました。

茂平さんは、あるとき、馬に薪を積んで町へ売りに行きました。そして、薪のお金をもらってお酒を飲んでいい気持ちになって「コポリ、コポリ」と馬を引いて、おばあさんの待つているお家へ帰っておいりました。

大戸という山に差し掛かりました。お日さまは西の山に入りかけていました。そうすると山道に女の人が立っていました。

茂平さんは大戸の山に狸が化けて

出ることを聞いていたので、さては狸が女の人に化けてきたと思って「ねえさん、ねえさん、この馬に乗せてあげよう」と言つて馬の荷鞍に乗せました。そしてすばやく荷縄で縛り付けました。

すると女の人は「放してくれ、放してくれ」と言いましたが、茂平さんは急いで女の人を乗せたまま家に帰りました。

「おばあさんや、おばあさんや、焼き火箸を持ってきておくれ」と言つておばあさんの持つてきた焼き火箸を女の背中に突きつけました。すると女の方は、すぐに狸になつてキヤーキヤーと言つて荷縄を抜けて山へ帰つていききました。

そして、明るる日、茂平さんは馬に薪を積んで町へ売りに行きました。

また、酒を飲んで馬を引いて帰つていました。大戸の山へ差し掛かりました。大きな岩の上から一匹の狸がこちらを向いて「尻焼き茂平さん今ここを通り候」と大きな声で言いました。

初詣、ボランティアの皆さん ありがとうございました



昨年10月末のふくろうふれ愛まつりでお披露目されたふくろう募金箱に、昨年末までに103万2327円が集まりました。皆様のご協力ありがとうございました。今後ともふくろう基金へのご協力お待ちしております。

忘れてはならない1・17

淡路ふくろうの郷は阪神・淡路大震災の時、家をなくした聴覚障害者の「同じ仲間が生活できる老人ホームが欲しい」という思いから運動によつてできた施設です。あれから21年、淡路ふくろうの郷は今年開所10周年を迎えます。あの震災を教訓に今もそしてこれからも入居者さんの命をつないでいきます。

(健康看護係…渋谷)